

第2回 恵那南地区中学校再編委員会 会議録

- ・日時 平成27年6月25日(木) 19:30～
- ・会場 岩村振興事務所 大会議室
- ・出席者 小中学校代表 春日井尚武、小板忠昭
こども園代表 千藤まゆみ
地域自治区代表 山本純、西尾公男、黄地尚幸、原田知典、阿部道長、堀真人
安藤良一、安藤仁志、川上貞夫、大島将官
中学校PTA代表 近藤祐司、伊藤昌治、松下雅昭、成瀬浩司、横光基
小学校PTA代表 加藤信之、渡邊大剛、川上渡、高井良三
こども園保護者会代表 森井清、小木曾耕司、成瀬一、伊藤寛隆、堀雄二、川上翔
恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 鈴木峰夫、中垣貞好
地域自治区会長会議代表 樹神和昭
総合計画審議会代表 西村貢
行財政改革審議会代表 柘植麻美
振興事務所長 西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、三宅勝彦、熊谷浩
教育委員会 大畑雅幸
事務局 門野幸次朗、岡田庄二、土屋育代、安藤一博、西尾克子、梅村浩三、
石田祐一、山田耕司、度會将仁
- ・欠席者 小学校PTA代表 小川道義

・委員会内容

1. 開会挨拶 委員長、教育長
2. 現地視察を通じての感想について
3. 再編に向けての学校教育と教育環境について
4. 既存施設の状況について
5. 各地域の説明会について
6. 現地視察について

事務局 : 議事に入ります。

2. 現地視察を通じての感想について

事務局 : 資料の 2 頁から 7 頁に昨日まで提出いただいた感想をまとめてあります。本日は提出されていない方に感想を述べていただきたいので、委員長より進めていただきます。

委員長 : それでは私から指名しますので、感想を述べていただきたいと思います。

委員 : 東中学校のみ参加させていただきました。やはり、市街地の学校であるので部活の数も多いし、学習環境の整った学校だなと思いましたが、3年生の38人クラスを見たときに狭いというか窮屈そうに勉強していたというのが印象に残りました。非常ににぎやかで、生徒が多いのは良いと思いましたが、通学の距離、部活の話も聞きましたけれども、市街地であるので距離も 6km と非常に恵まれています。私の地域と非常に違いますし、これからも恵南の学校を回りますので、それを見てまた感想を述べたいと思います。

委員 : 東中と西中を見学させてもらいましたが、とにかく生徒数が多いなと感じました。授業はどこの学校も生徒の姿は変わらないもので、元気に挨拶ができたり真剣に授業に取り組む姿を見させていただいたというのが感想です。

委員 : 人数が多くて活気があるということを感じたところです。やはり教育の専門家ではないので、どういうスタイルが子どもの教育に良いのかということになると、西中、東中のスタイルが必ずしも正しいということとは言えないのかなと感じました。

委員 : 両校見学に行きましたが、やはり人数が多いので活気があるなと感じました。授業ではグループ単位で勉強している場面がありましたが、人数が多ければグループも大きくなっていろんな意見が出てくるところは良いところだと思いました。

委員 : 人数が多いなと感じました。私も人数の少ないところで授業を受けてきましたので、窮屈そうに授業を受けているなと感じました。

委員 : こういう議論をする際に気をつけなければならないことがあると思います。私も現場では教員ですが、個々の先生ががんばられているというのは大変良いことです。がんばらない先生に出会う場合もあると思います。教育というのは教員集団として一定の質が担保されるのが大切であり、この感想を見てると若い先生ががんばっているということを言われています。たしかに若い先生はがんばりますが、いろんな世代が学校の中で集団として若い先生を補佐したり、導いたりして若い先生を磨き上げていくシステムが教育力としては必要と考えています。1クラスの状態がどうこうという議論もありますが、教員集団としてもつ教育力をどうい

う風に学校の教育という場を実現させるのかという視点で物事を考える必要があると思います。教科の先生の教育力を上げる為には、同じ教科の先輩の先生を見習うなり、見て育つなりそういう仕組みが大事で、教員として一定数は必要であると思います。生徒に対して教育のことを考えた場合、小学校教育ではないので、中学校でもつ社会性、部活動を通して、中学生レベルとして生徒自身が育っている条件をつくっておけるのか、マンツーマンでがんばらせるのではないレベルの教育が中学校で求められている。そういった目線で見させていただきました。

委員長：他に意見はありませんか。

委員：昨年も見させていただきましたが、見た内容が授業中でありました。生徒の休み時間や昼休みの行動についても、大きな学校と小さな学校を見てみたかったです。

委員：私も2校見させてもらって、東中は校区が狭いので非常に登校するには良い条件だと思いました。西中は97%が自転車通学と聞いてびっくりしました。地域柄仕方が無いことだと思いますけど、それにかかる心配事もあり4月から自転車教室を開催され大変だと思いました。子ども達は先生の課題に向かってやっていて良いと思いましたが、授業が動きのあるものではなかったもので、やる気のあるところを見せてくれていると感じてきました。視察先に恵那北中学校がありません。私は、今後恵南の統合を考えていく上で恵那北中学の統合と現状をきちっと見ておくことが、恵南の学校を1つにするか2つにするか検討していく中で重要な教訓があるのではないかと考えています。なぜ、はずされているのか判りませんが、委員の方がよければ、学校の再編の参考にさせてもらえればと思います。

委員：私も恵那北中学の見学は賛成です。恵南と同じような状況の中、統合して今に至っているということで統合した後どのような形になっているのか、父兄、住民の意見を聞きたいと思っています。通常の授業だけでは人数が多い少ないでは活気があるように見えますし、大きな変化は無いと思います。やはり、小規模校は小規模校なりの特色ある授業も行っています。そういうところを見ていただくのも新しい発見が皆さんもあるのではと思います。恵南はそのような内容も組み入れていただきたいと思っています。

委員長：感想ありがとうございました。次の議題に入ります。

3.再編に向けての学校教育と教育環境について

事務局よりパワーポイントに基づき説明

4.既存施設の状況について

事務局より資料に基づき説明

5.各地域の説明会について

事務局より説明時期・方法について説明。

委員長：地域への説明について、地域で調整いただき事務局まで連絡いただきたい。

委員：そのことについてお願いがありますが、去年からあり方検討委員会を持たれて、地域やPTAの参観日などに説明を聞きました。説明会は結構行われているのは前回の資料でわかりますが、参加者が少ない状況です。説明と同時に統合について心配ごとやクリアすることなどの意見を聞く事が大事だと思います。私は地域協議会を代表していますが、地域協議会でもまだ十分方向を議論する時間が無く、再編を検討するときこの前いただいた手引き書の21頁に『統合を行う場合の検討体制の工夫』というところがあります。教育委員会より統合のメリットをいっぱい話して貰っています。この中に学校統合の検討に係る全国の取組では、『検討プロセスにおいて、地域や保護者の代表に検討委員会の委員として参画してもらう。検討前や検討の途中で保護者や地域住民のニーズや意見を聴取するためにアンケートや公聴会、パブリックコメント等を行う。』とあります。説明した後に心配事や意見、考えを聞いてくれる公聴会を行うことが大事だと思います。地域の方がこういうことを課題に持っていると言えれば良いのですが、今日の冒頭でも地域の代表であるから集約して話を聞いてまとめてきてくれということを盛んに言われましたが、そういうことも一方では大事だが、みんなの意見を聞いてほしい。それが公聴会だと思うのです。一方的に説明するものではない。聞き出す説明会、公聴会をお願いします。

委員長：本日は皆さんから意見をいただこうと思います。他にご意見はありませんか。

委員：教育長が言われていましたが、委員があり方検討委員会と再編委員会で委員が交代しているので過去の状況がわからない。地域で会議をしても、末端まで話がおりにないと感じました。説明会も大事ですが、過去の会議を振りかえりながら進めていただくと新しい委員も理解できると思います。提言書の内容も振りかえりながら進めていただきたいです。

委員：パワーポイントで自己実現を図っていくために、ある程度の人数規模の集団で授業を行うことが望ましいということですが、段々規模が縮小していきます。現在恵那北中が縮小していますが、そうなる自己実現には向かないということでしょうか。今現在、統合していない小規模の学校がありますが、ここで自己実現するためには困難であるということでこの話が進んでいるのかお聞きしたい。

事務局：小さい学校から卒業した人は自己実現ができていないかといえばそうではありません

せん。ただ、時期的なものがありまして、高校では多くの人と関わりますが、社会にできればそこでも関わっていきと思います。私たちが考えているのは、小学校や中学校は練習できる場と言っています。失敗を繰り返し練習しながら大人になっていきますので、大人になってからの失敗は許されません。できるだけ、早い段階でそういう環境を整えてあげれば、自己形成により良いのではないかと考えています。その条件を整えてあげることが出来そうなので、何とかできないかという提案です。

委員：大勢の中でいろんな意見を聞ける場というのは私も好きです。先程のパワーポイントの内容では反発をもたれる方もあるのではないかとということが気になりました。

委員：専門の先生の話ですが、例えば数学に関して西中、東中は3人見えますが、岩中は1人です。1人の先生が1年から3年生まで見られているということですか。

事務局：そうです。

委員：4年間教員になる為に努力されたので、技術的に問題は無いと思います。今の時代、親の要望もいろいろあると思いますが、3人見える学校と1人の学校では違ってくると思いますので、人数が多ければ解消されて内容のある教育が出来ると思います。

事務局：ある程度の水準は保つようにはしています。職員が増えれば、お互いに高めあえることも出来ますし、いろんなアイデアも出来ます。子ども達にとって様々な教え方を経験することで学力の幅が広がることにもなりますので、複数の教員がいていろんな先生に触れることが大事だと思います。少ないより多いほうが良いということになります。

委員：PTAの中で意見聴取はしているのですが、親としては不安が多いので、説明していただくのは良いことだと思います。その中で、保護者の不安を直に吸い上げていただきたいと思います。今回は統合の時期、統合の場所を検討する上で、すべての不安を払拭した上で決定したいと思っています。

委員：恵那北中学は合併されてこの人数です。岩村、明智、山岡と恵那北中学は同じ人数でいく事になりますが、恵那北中学の統合の話が無いのは特別ということですか。

教育長：恵那北中学校は今年度で開校して19年目になります。中野方中、飯地中、笠置中の3校が平成9年に統合しています。先程言われましたが、北中を特別扱いしているわけではありません。この後、相談していかなければならない時期がくるこ

とは確かですが、この会で話をするのは違うと思います。

委員：そうではなくて、この資料を見せたときに、『何で同じなのに恵南だけやらなくてはいけないか』という話になる。『これなら合併しなくてもいいのでは』という意見が出たときに、どう応えるべきか聞いておきたい。意見を聞いている中で、『どうせ合併はしなくてはいけない』という意見もあった。それなら、場所とか通学の話とか、保護者が知りたいある程度の概要が決まってからの説明でないと今の段階で説明されても話しにならない。少なくなっているのは、保護者もわかっていますので、どうせ合併するという思いの中で、この会と平行して進めていかないと、いざ行うときに話が違うということになる。こども園のときも遅くて、保護者の間では市に対して不信感がある。

教育長：昨年度のあり方検討委員会でも話題になりました。前段のときは、1校は無理だという意見もでていました。その時に出生数や指導体制とかを理解していただくうちに、仮に2校3校にしても課題は解決できない、すぐに次のことを考えていかなければいけないという中で提言書には1校が望ましいということになりました。恵那北中学校も統合したときは、全学年2クラスでした。それが、数年前から単学級になっています。一旦統合したが人数が少なくなったのでまた統合するのは短いスパンで出来ません。一回統合したら一世代ぐらいはその状況でやっていくべきで、数字だけみて考えていくことはできないから、長い見通しを持って1校にという提言になりました。恵那北中学校も不安の声が私のところへ届いています。話題にはしていかなければならない時期にきたと思っていますが、やっと卒業生が地域の保護者の年齢になったところですので、様子を見ながら話をしていくことは考えています。それと、ある程度の道筋をつけてからというご意見ですが、これにもいろいろご意見があります。教育委員会がそこまで決めてしまったとかありますので、この会で概ねの方向性を出していただければ資料はいろいろ作成して何点かの選択肢は作って提示します。ぜひ、いろいろご意見をいただければと思います。

委員：今の意見で言いたいことがあります。北中は統合したのです。統合したときは170名ぐらい生徒がいました。ところが今は79名です。どうして減っていくかという、私の考えでは、飯地、笠置、中野方では中学校がないので小学校だけです。そうすると、田舎へと志向している若者がいます。そういう人たちが学校の無いところに来ますか。自分の子どもは歩いて通えるところで育てたい。統合して学校の無いコミュニティにすることによってどんどん過疎が進みます。学校がある、

若い世代がいるコミュニティを作っていないといけない。地域で子育て世代をどうやって増やすかということをお考していかなければいけない。

委員：学校の親と子どもだけでなく地域が関係してきます。学校と共に地域があると考えたときに、子どもと学校の親を集めた説明会という次元ではないと思います。

委員：この統合で想定されている通学の方法、遊学時間はどうなっていますか。想定でかまいません。

教育長：およそ1時間と手引き書には書いてあります。1時間程度は目安にはなると思います。

委員：今バス停までは徒歩で1km約10分。バスで10km約15分。そこから1km。串原の最短距離を使ってその時間です。串原の中の移動だけで40分かかります。想定1時間は串原から出るときには想定から外れてくる。学校で何時まで部活やるのかわかりませんが、冬の暗い時間にバス停から一人で帰ってくることになりませんが、そのことを皆さんどう考えるかです。

教育長：まさにそのことを検討していただくのが、この会です。あり方検討委員会からのつながりでいいますと、まずは何を一番大事にして方向性を出すかです。いただいた提言書の内容は「早急に改善を図る必要がある」「1校するのが望ましい」という提言でした。今日も資料を出させていただきましたけど、当然ご負担やご理解をいただかなければいけないことが沢山出てきます。それを吟味していただいて答申をいただくことです。

委員：答えが出ないこともありますね。

教育長：そういうこともあります。何とか出していきたいと思います。

委員：当委員会は、前検討委員会から1つに統合することが望ましいという結論の基にこの会議が進んでいます。質問の気持ちは良くわかります。統合したことを仮定して問題点、課題を出してどんどん意見を言うべきです。

委員：先日いただいた資料の終わりにという部分ですが、「この提言書には記載されていない各委員のこれまでの意見や会議録等を附帯資料として添付します」とありますが、去年までの会議録は資料としていただけますか。

事務局：配布もできますが、ホームページに掲載しておりますので、ご覧下さい。

委員：今ここで意見を述べることは控えたいと思いますが、基本的には合併に関して、中学校のPTA会長として、いろんな話ができる状況では話はできません。今後、説明をしていただけるということなので、役員の意見などを聞きながら意見を述べていきたいと思います。

- 委員：難しい話なので意見は言えませんが、保護者会としても一同に会する場所が無い
です。意見を集約していかなければいけないと思っています。先程のパワーポ
イントも良いとこばかりなので問題点も載せたりすると良いと思います。
- 委員：PTAからの意見を聞いていませんし、こちらから保護者へ説明もできていま
せん。私たちのところは通学に問題があると思っていますので、その辺は慎重に検
討しないと保護者にも納得してもらえないと考えています。
- 委員：今日は皆さんの話を聞かせていただきたいと思っていました。前の検討委員会の
資料については、議事録等を見させていただきました。その内容を踏まえての再
編委員会というつもりで、私は出席しております。先程から言われることの中で、
北中の場合、すでに地域の役員などは非常に危機感を持っています。従ってこの
会の状況を注視しているのが現実です。再編というのは、非常に難しいと思っ
ています。西中が東中と分かれたときに、私は中学生でした。せっかくできた友達
が離れていく寂しさが非常にありました。ただ、東中へ代わっていった生徒とも
今でも友達づきあいができていますので、必ずしも統廃合が寂しいものではない
と思っています。通学路の問題は本当に議論されないと非常に困ったことになる
と思います。長島町から西中へ行く場合は、スクールバスが使用できません。東
野との境界にある子は、スクールバスが使用できます。三郷地区はスクールバス
が出ます。ただ、道1本挟んだ長島町の子どもはスクールバスが使えません。そ
ういった地区割りで弊害があるわけですから、そういうところも研究していただ
いて、負の部分を取り込んでいく必要があると思っています。パワーポイントの
中で、非常にメリットを強調されています。再編に反対というわけではないです
が、メリットばかりで全てバラ色だという説明のしかたは如何と思います。教育
委員会の立場としてメリットが高いと言ってもらうのは良いが、それでは住民の
選択肢の幅が無いということです。デメリットを自分で考えなければならない。
やはり、メリット・デメリットはすべて出すのが紳士的な資料の出し方だと思
います。冒頭に申し上げた検討委員会の提言の結果に基づいて再編委員会があるわ
けですから、基に戻ることのないように選択肢の幅を広げていただきながら判断
をしていくことは必要であります。皆さんは苦渋の選択をするわけであり、安穩
とした選択を出来る地区はどこも無いと思います。正直にメリット・デメリット
を出し、話し合いをしていく姿勢が大事であると思います。
- 委員：せっかく昨年のあり方検討委員会で話し合われた結果の重みを私たちは受け止め
て参加しなければならないということです。こういう会が何回も開かれ、そうい

った中で適正配置条件を考え、統合という結論を出されていますので、その統合を進めていく上でメリット・デメリットを出し合いながら、出し合うためには具体的な提案が無ければいけません。提言書の『早期に統合の時期・場所・通学方法等について調査研究、協議を行う』とあり、これは私たちの使命であると思っ
て来ていますので、統合の時期はいつか、場所、通学方法などについて、皆さんが疑問に思われることをそれぞれの立場で出し合っていていただいて、それを話し合うのがこの会だと思っています。具体的な案があればどんどん出していただければ、意見が言い易いですし、結論が出し易いことになると思います。

委員：地域でいろんな方と出会いますが、ここに出ているような質問があります。昨年度までの状況を地域の方々にもしっかりと説明をしていかないといつまでたってもこういう話になると思います。

委員：行財政改革審議会から来ていますが、そこで具体的な話は出ていません。ワークショップで恵那市の施設の適正配置をやっています。そこで学校の話が出ているわけではないですが、学校再編の話は皆さん知っていますので、それがどうなるかによって行財政の審議も変わってくるという話がでてきます。それは、地域関わってくることなのでどこかで決められることではないという意見が出ています。

委員長：まだまだお話ししたいとは思いますが、今いただいたお話を基に事務局で整理をしていただきたいと思います。次の議題に入ります。

6. 現地視察について

事務局より資料に基づき説明。

7. その他

事務局：今回は7月28日火曜日19時30分から岩村振興事務所で行います。

本日はこれで終了します。最後に副委員長挨拶をお願いします。

副委員長：本日の2回目の会議、皆さんに出席していただきありがとうございます。全員の方に意見を言っただけだと良いのですが、時間の都合もありまして述べていただけなかった方もありますが、次回はよろしくをお願いします。皆様方からご意見をいただく中で会議の持ち方を考えていきたいと思っています。議論していく中でいろいろな課題があると思いますが、委員の皆様方のご意見をお聞きしますと、個人的な意見ではなく所属団体の意見がまだ詰まっていないという話がありました。今後も地元の各団体へこの会議の内容の説明をお願いし、意見をまとめ活発な意見をお願いします。次回の現地視察よろしくをお願いします。

委員：提言書の中に次年度以降恵那南地区学校再編検討委員会を発足しとありますが、

なぜ検討が消えているのかお聞きしたい。

教育長 : 6月議会でも質問をいただき回答しておりますが、そこに大義を持っていたわけではないです。このようにさせていただいたのは、提言の時には仮称でして、この委員会の名前にこだわりを持っていたわけではありません。この時は、引き続き恵那南地区代表の方々と進めていきたいと思っておりました。このことを教育委員会、市長部署にも報告するわけですが、恵那市全体で考えるべきであると市長からのアドバイスがあり、市の審議会の代表の方にも入っていただいています。昨年度は依頼、提言をさせていただきました。今年度は依頼、提言ではなく諮問、答申です。いただいた答申は市として、より尊重していくという意味がありますので、ご理解いただきたいと思えます。

委員 : それならば、去年のあり方検討委員会のメンバーにその話はされているのですか。

委員 : 去年もそういう説明はありました。

副委員長 : 本日の会議は終了します。

21 : 18 終了